

私なりのワークライフバランス

九州農政局 北部九州土地改良調査
管理事務所 筑後川中流支所

● 野中美紀子 の な か み き こ



— 今の仕事と出会ったきっかけ —

私の出身地は佐賀県嬉野市であり、お茶畑と田園風景が広がる田舎で育ちました。小学校の先生からのお知らせでは、不審者への注意警告より猿や野犬への注意警告が多く、最寄りのコンビニが徒歩で一時間以上かかる田舎町でした。

そのような田舎で育ったおかげか、生き物が好きで、生物に関わる仕事がしたいと「農学部」を選択したのがスタートだったと思います。私の学生時代、農業土木分野は「環境工学」や「環境科学」という名前の研究室が多く、環境へ配慮したモノづくりをテーマとした研究室が多かった記憶があります。名前のとおり、環境や生物の勉強ができると思い進学したのですが、入学すると水路やゲートの構造計算の勉強が始まり、測量の実技が始まり、気づけば就職活動が始まっていました。

学校へ紹介される求人は、土木系のものが多く、その中でも公務員がコンサルが建設会社を選択するというのが学部として一般的な形となっていました。「理系職を選択している時点で、モノづくりに携わりたいと思っていたし……。まあいいか!! どうせなら大規模な仕事がしたいな。」と、なんとなく国家公務員の農業土木職の世界へ入りました。目標があったとかではなく、流されていた感じがします(笑)。

— 私の仕事 —

そうして選択した職業ですが、今年で一二年目になりました。職場の人間関係がよく、楽しく過ごせれば、継続できるものだ

なあと感じます。

現在の業務としては、今年四月異動となり、完了地区のフォローアップ調査や施設情報の整理、新規地区を立ち上げるための様々な調査業務の予算管理を行う仕事に従事しております。

今年は育休復帰後三年目となり、一二年目は工事の発注及び監督、またそれに係る予算管理といった現場業務に従事しておりました。全く異なる業務内容で戸惑うことも多々ありますが、周りにフォローしてもらいながら日々業務を進めております。

今までで一番印象に残った業務は、昨年度まで従事していた工事の発注及び監督業務です。やはり、モノづくりをやりたいと入省時から思っており、しっかり工事に携わったのは、その時が初めてだったので……。工事一件を行うにも、そこには住民の方がおり、関わる団体の方がおり、自分の思うように進まない事もあり、落ち込むこともありますが、なんとか工事が終わった後、地元の方から「使いやすくなった。よくなった。」等の言葉をいただく嬉しくなります。利用者に近い分、やりがいを感じるきっかけを地元の人から言葉でもらえるのは、現場の良さだと感じます。



現場で材料確認をしている時の写真

私が思うワークライフバランス

近年、女性の社会進出が進み、業界を問わず、様々な分野で女性をみかける時代になりました。それに伴い、「ワークライフバランス」という言葉も身近に聞く機会が増えたと思います。現在、同職者である夫とフレックス等の職場の制度をフル活用しながら、協力して三歳の娘を育てております。育休復職後三年目の年となりますが、子供の成長と共に日々やることも変化し、時間に追われながらも子供の成長を日々感じつつ、家族と楽しく過ごしております。

最近、土木職を目指してくれる学生を対象とした業務説明を行う機会を頂くのですが、家事・育児・仕事の両立って大変ではないのかといった質問をよく頂きます。

私自身も効率よく両立している訳ではなく、模索しながら生活している状況なのですが、すべてを両立していく上で大切なのは「手抜きを自分に許す」ことだと考えています。「完璧」を求めず、すぐ「外部に助けをもらう」です。仕事一つでも完



休日の様子（子供の習い事に参加）

壁にできないことがあるのに、家事・育児・仕事の三つを一人の人間に求めること自体が無理だと思いませんか？（笑）

今の時代、職場の福利厚生の実や上司の理解力の他、頼るところはたくさんあります。宅食キットや家事代行サービス、他生活を利用にするアプリ（ネット注文や銀行自動振込

アプリ）等です。このように現代は、働く子育て世代を支える仕事やもので溢れています。便利アイテムを使ってみると、自分一人の力では不可能なくらい質のいい生活ができますし、外注化することで時間にもすこしだけ余裕ができます。改めて考えてみると、人だけでなく、いろんな仕組みにも支えられながら、子供とのかけがえのない時間ができていると感じます。

「これからの時代」に対して思う事

私が就職活動を始めた頃、福利厚生が充実していると言われる公務員であっても土木職の女性職員は少なく、それから考えるとだいぶ人数も増えて、職場の雰囲気も変わってきたと感じます。

男性も積極的に子育てに参加する時代となってきた、家庭の悩みも相談しやすい風通しの良い職場になってきたと思います。私の家庭でも夫が育児を取得し子育てを行い、子供が発熱したら子供の看護休暇を取得し対応します。これからの時代は、仕事でも家庭でも、男女の役割ではなく「〇〇（職場・家族等）の一員」として何ができるのかを求められる時代になるのだと思うと感じます。年齢・性別関係なく、何でも経験したことのあつた人へ相談できる社会になると嬉しいと願う今日この頃です。

野中さんからのバトンをしっかりと受け取りました。

次号では、設計コンサルタントを経て、主に農業土木資材を取り扱う商社で働く女性技術者としての仕事内容と、仕事を通して感じていることをお話したいと思います。よろしくお願ひします。

株式会社北陽 営業推進部

飯田 宏美

